

SDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

成長につなぐ — 事例17ゴールズ&169ターゲット

143

九州流通サステナビリティサロン

イオン九州など九州地域の小売りの社は、連携組織「九州流通サステナビリティサロン」を通じて、流通業界や地域の持続可能性の確立を目指す。



イオン九州などが参画する流通企業の連携組織「九州流通サステナビリティサロン」の発表会見で並ぶ参画企業代表者。SDGsの17ゴールにちなんで「17」を指して表した。

脱炭素・共同販促など課題解決で連携

長は「次世代につなげるきっかけにしたい。事業者が集まれば可能になる」と意気込む。会員でスーパーを展開する丸高商事(長崎県諫早市)の高尾謙介専務は「社内で意識を高めることはできるが、取引先や消費者への意識醸成は当社だけではできない」と意義を説明する。



参画企業が実施するサステナブル商品の共同販促イメージ。共通のPRツールを用いて訴求することで効果の最大化を狙う。

情報BOX

バイオマス発電燃料調達で新会社 京葉カスエナジーソリューション(千葉県市川市) 吉岡比呂志社長は、バイオマス発電事業拡充の一環として、北海道北斗市に完全子会社の道南木材産業を設立した。

埼玉・行田市の街路灯LED化 岩崎電気を代表とするグループは、埼玉県行田市がESG(エス・ジー・シー)事業として2022年度に公募した「行田市スマート街路灯・LED街路灯整備事業」を受注している。

東京大学 大学院工学系研究科教授 総長特別参与

沖 大幹



世界気象機関(WMO)と欧州連合(EU)コペルニクス気候変動サーベイスによる共同報告書「2022年の欧州の気候の現状」が6月半ばに公表された。前回は21年の暴風雨と洪水が主に取り上げられていたのに対し、22年版は高温と長く続いた干ばつが主役を躍り出ている。

未来を変えろ

報告書によると、欧州はWMOが定める世界六つの地域の中で最も急速に温暖化が進行しており、1980年以降10年に0.5度Cという世界平均の倍以上の割合で温暖化が進み、61ヶ国では史上初めて40度Cを超える気温が観測され、アイルランドでも史上最高の33度Cを記録するなど、北イングランドや西フランスを中心に多くの地点でこれまでの記録を3度C以上更新する高温となった。こうした熱波に伴い、スペインで4600人、ドイツで4500人、英国で2800人、フランスで2800人など欧州全体では約1万6000人の超過死亡、そして17年に次ぐ記録

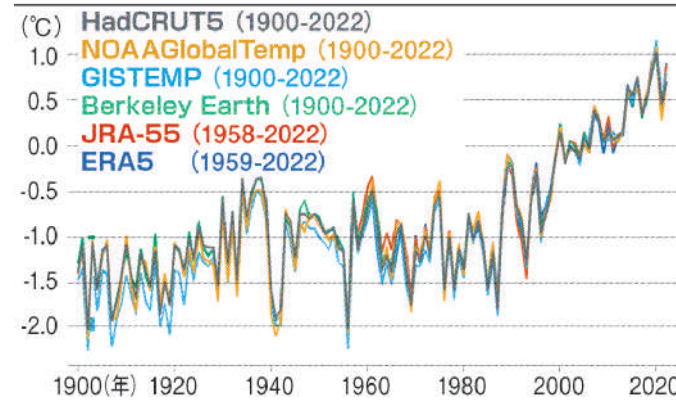
欧州、世界で最も急速に温暖化進む

WMO報告書 昨年 高温・干ばつ 主役

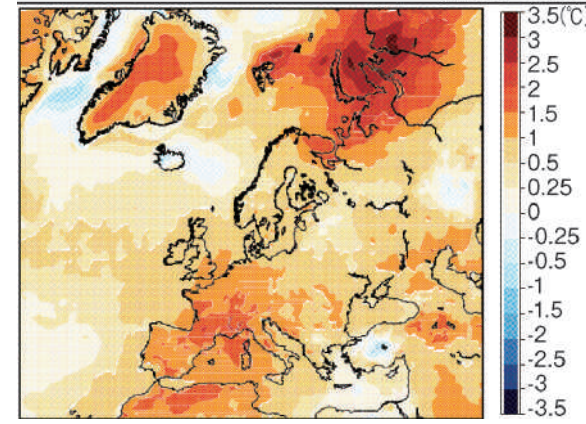
海面水温上昇/英では初の40℃超

上つ番目の80万枚を焼いた野火がもたらされたと推計されている。ただし、風水害による被害は21億ドルの経済被害で、21年の514億ドルに比べてかなり少なく済んでいる。22年の干ばつに伴う水温上昇は冷却水利用にも影響し、発電量も縮小したという。気象要因による原子力発電所の発電損失は17年の0.29%から22年には0.35%に増えているが、現在太陽から地球表面への放射量が平年値に比べ4.9%多くなっている。

欧州の1991-2020年の平均気温に対する偏差の推移



2022年の欧州平均気温の地理的分布



おき・06かん 1987年(昭62)東京大学工学部卒業、93年工学博士、気象予報士。同大生産技術研究所助教授などを経て、たい東大教授。東京財団政策研究所研究主幹、日本学術会議会員、ローマクラブ正会員。IPCC第2作業部会第5次評価報告書統合執筆責任者、国際連合大学上級副学長、国際連合事務次長補も務めた。14年アメリカ地球物理学連合フェロー、21年国際水文学賞Doogeメダル、23年欧州地球科学連合John Daltonメダル。

Table with 4 columns: Material, Indicator, 2025 Target, 2021 Actual. Rows include Glass bottles, PET bottles, Plastic packaging, etc.

3Rを強力推進 容器産業

容器は液体や気体、粉粒体などの内容物を保護し、運搬・保管する役割を担う。中身がユーザーのもとに届き、使用・消費されたとき、容器本来の役目は終わる。かつて使用済み容器は「ゴミ」として処分されることも多かったが、地球環境問題、資源問題の深刻化を受け、容器包装リサイクル法制定などの法整備や社会意識の醸成が進められた。国、自治体、消費者、関連業界が連携を深め、容器や包装資材の回収・リサイクルは大きく進展してきた。



みなさまの身近で 暮らしをささえる容器包装。社会インフラとも言える大切な役割を担っています。これまで培ってきた包装技術を基軸に総合力を活かした価値創造でさらなる飛躍をめざします。 東洋製罐 CAN https://www.toyo-seikan.co.jp

リサイクル、高水準を維持 第一自主行動計画の06年度から累計すると、21年度の累計削減量は約1108万トンに達する。スチール缶については21年度の実績をみると、1缶当たり平均重量の軽量化率は基準年の04年度比で9.1%、06年度からの累計削減量は34万6000トンになった。 また、各素材のリサイクル率は、スチール缶やアルミ缶、段ボールでは90%以上のリサイクル率、回収率が維持されている。21年度のスチール缶のリサイクル率は93.1%で、自主行動計画2025の目標「93%以上維持」を達成している。11年連続でリサイクル率90%以上となっている。